

(様式 19)

電 気 設 備 工 事 施 工 監 理 チ ェ ッ ク 表
----------------------------------

工 事 名 \_\_\_\_\_

受 注 者 住 所 \_\_\_\_\_

社 名 \_\_\_\_\_

現場代理人 \_\_\_\_\_ 印

	チェック日付	チェック責任者
施工前	令和 年 月 日	印
完工時	令和 年 月 日	印

大 津 市 建 築 課

(電気設備係)

※ 現場代理人等は、このチェック表により施工前の事前チェックと完工時の事後チェックをすること。本工事に該当しない項目はチェック欄に横線を記入すること。当該チェック表は最小限の施工の手引きであり、設計図・標準仕様書・関係法令等により適正に施工する。

平成	4年	4月	・・・	初版発行
平成	5年	7月	・・・	2版発行
平成	9年	4月	・・・	3版発行
平成	10年	7月	・・・	4版発行
平成	11年	7月	・・・	5版発行
平成	12年	8月	・・・	6版発行
平成	14年	4月	・・・	7版発行
平成	21年	4月	・・・	8版発行
平成	23年	8月	・・・	9版発行
平成	25年	12月	・・・	10版発行
平成	29年	4月	・・・	11版発行
平成	30年	4月	・・・	12版発行
平成	31年	4月	・・・	13版発行
令和	2年	4月	・・・	14版発行

## 目 次

I 一般事項	2
II 配線関係	5
III 配管関係 (金属管)	6
IV 配管関係 (P F 管)	8
V 配管関係 (金属線び)	9
VI ケーブル工事	10
VII プルボックス関係	12
VIII 防火区画等の貫通	13
IX 配線器具関係	14
X 照明器具関係	15
X I 盤関係	16
X II 屋外関係	17
X III 受変電関係	20
X IV 弱電関係	21
X V その他	22
X VI 工事写真撮影チェックポイント表	23

I 一般事項

項 目	チェック欄											
	施工前	完工時										
1 現場代理人は、工事着工時に承諾した書類、工事請負契約書、現場の火災保険・建設工事保険その他の保険および労災の写しを所持する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										
2 工事に関する提出書類は、工事関係提出書類一覧表および工事関係提出書類作成手引きにより作成し、遅滞なく提出する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										
3 機材の承諾は、所定の様式により、次の要領にて行う。 工事契約—— 機材製作図—— 承諾 —— 発注—— (製作 —— 工場検査) —— 現場搬入 —— 材料検収 —— 施工	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										
4 製作図等の作成、提出にあたっての注意事項。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										
① 使用メーカーは、後日の管理面を考慮して既設棟を参考とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										
② 配電盤の結線、容量は、関連工事と打合せ照合する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										
③ 提出書類は、赤色ファイル（A4）に表紙を付けて提出する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										
④ 機材製作図に、各機器の一覧表を添付する。更に照明器具・弱電機器等の取り付け場所を下記の要領で各製作図に記入する。尚、配管・配線については、製作図は不要であるが、監督職員の指示があった場合はこの限りではない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;">機 器 名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>記 号</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 置 場 所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>台 数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>備 考</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	機 器 名		記 号		設 置 場 所		台 数		備 考			
機 器 名												
記 号												
設 置 場 所												
台 数												
備 考												
⑤ 監督職員の指示があれば、機器の基礎およびアンカーについての耐震等の検討書を添付する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										
⑥ 盤の分岐回路名は製作図返却時に打合せ決定する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										
⑦ 製作図の作成（特に盤類）は、受注者とメーカーが直接打合せを行い現場代理人がチェック後監督職員へ提出する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										
5 官公署への申請手続き一覧表を作成し、速やかに処理し、その経過を明らかにし、書類は写しをとっておく。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										
6 材料の検収は、現場代理人がその都度設計図書等と照合し、記録する。（機器材料の検収については、所定の様式による。）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										
7 工事の定例打合せ等は、その都度記録し、工事日報、工事写真等と共に常に整理しておく。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										
8 工事日報は出面累計、作業内容、特記事項を毎日記入する。（事前準備等は、それに要した期間を1ページにまとめ書きを可とする。）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>										

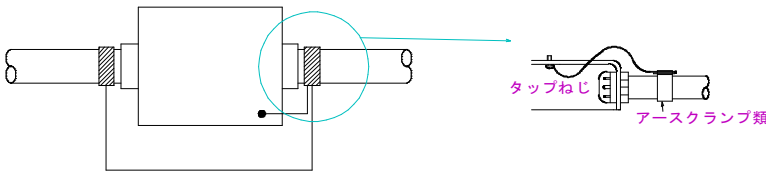
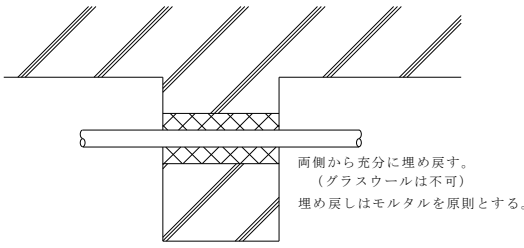
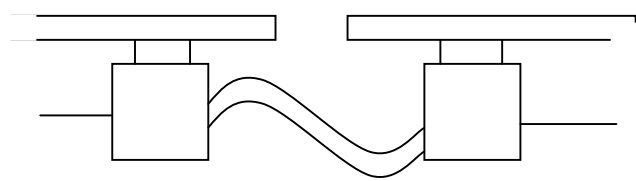
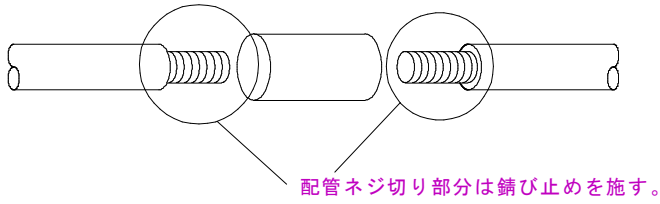
項 目	チェック欄																	
	施工前	完工時																
<p>9 工事写真は必ず看板を入れ、摘要欄に説明を詳しく書いて撮影する。尚、添付『工事写真撮影チェックポイント表』を参照のこと。</p> <p>《看板の様式例》</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="width: 100px;">工 事 名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工 種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>摘 要</td> <td></td> </tr> <tr> <td>施 工 者</td> <td></td> </tr> </table> <p>※ 下請負施工の場合、施工者名は〔元請業者名〕とする。</p> <p>1 0 現場には、法令で定められた看板等を見やすい位置に掲示する。</p> <p>1 1 施工体制台帳及び施工体系図を工事期間中は常に現場の見やすい場所に備えつける。(全ての下請業者を表示)</p> <p>1 2 現場事務所は整理整頓に努め、工程表、緊急連絡先、現場体制表等に掲示施工図、見本、製作図を常備しておく。</p> <p>1 3 材料の保管は種類別、サイズ別に分類して出来るかぎり屋内ですること。やむを得ず屋外に置く場合、養生を充分にしておく。</p> <p>1 4 塗装材料について、以下のものを使用すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調合ペイント塗料: J I S K 5 5 1 6 「合成樹脂調合ペイント」 1種とする。</li> <li>・屋内塗料は、F☆☆☆☆とする。</li> <li>・さび止めペイントは J P M S 2 8 「一液形変性エポキシ樹脂さび止めペイント」又は J A S S 1 8 M - 1 0 9 「変性エポキシ樹脂プライマーおよび弱溶材系変性エポキシ樹脂プライマー」による。</li> </ul> <p>1 5 竣工時には、予備品リストを作成し引き渡す。図面特記が無い場合、数量は下表のとおりとする。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="width: 100px;">制 御 盤</td> <td>電球※・ヒューズ類 1 0 0 %</td> </tr> <tr> <td>キュービクル</td> <td>表示灯用ランプ※・ヒューズ類 1 0 0 %</td> </tr> <tr> <td>表 示 盤</td> <td>電球※ 1 0 0 %</td> </tr> <tr> <td>自 火 報</td> <td>電球※・ヒューズ類 1 0 0 % 副受信機併設の場合、その台数を加えた枚数の警戒区域図を取り付ける。</td> </tr> </table> <p>※LEDの場合、不要。</p>	工 事 名		工 種		摘 要		施 工 者		制 御 盤	電球※・ヒューズ類 1 0 0 %	キュービクル	表示灯用ランプ※・ヒューズ類 1 0 0 %	表 示 盤	電球※ 1 0 0 %	自 火 報	電球※・ヒューズ類 1 0 0 % 副受信機併設の場合、その台数を加えた枚数の警戒区域図を取り付ける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
工 事 名																		
工 種																		
摘 要																		
施 工 者																		
制 御 盤	電球※・ヒューズ類 1 0 0 %																	
キュービクル	表示灯用ランプ※・ヒューズ類 1 0 0 %																	
表 示 盤	電球※ 1 0 0 %																	
自 火 報	電球※・ヒューズ類 1 0 0 % 副受信機併設の場合、その台数を加えた枚数の警戒区域図を取り付ける。																	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																

項 目	チェック欄	
	施工前	完工時
1 6 契約検査課の検査を受けるにあたっての注意事項		
① 工事竣工に先立ち施工者は必ず社内検査を行い、その記録及び処理経過を検査時に提出する。(原則として社内検査員が検査する。)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 諸官公庁検査(近畿産業保安監督部・建築主事・消防署等)の検査は原則として、契約検査課の検査前に受けて検査結果記録をまとめ、検査済証等をうける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 契約検査課の検査には、全ての書類を整理し提出する。 (I-2 参照)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 検査には、現場代理人又は主任技術者のいずれかが必ず立会いする。 この時作業に支障のない服装で立会すること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 検査時には、検査に必要な物(電線ゲージ・絶縁抵抗計・接地抵抗計・テスター・コンテスター・照度計・脚立・懐中電灯・スケール・検電器テレビ等)を用意する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1 7 産業廃棄物の処理について		
① 廃棄物の処理及び清掃に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、建設副産物適正処理推進要綱に準じて処理し、監督職員へ報告する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 撤去・搬出前に産業廃棄物処理計画書を提出すること。 ・処理業者および運搬業者の許認可書の写しを添付する。  ・処理業者および運搬業者の許認可書の写しを添付する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 完成時に産業廃棄物処理報告書を提出すること。 ・7枚綴りのマニフェストシステムにより、処分の確認を行い、E票の写しを提出する。(検査時に原票を提示)  ・再生資源利用促進計画書および報告書(電子データ共)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1 8 シンナー等危険物については、工事現場に放置することなく保管管理を厳重に行い盗難を防止するとともに、保管数量についても作業前・作業終了後の確認等、確実な管理を行うこと。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1 9 当チェック表になき事項については、「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)」・「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)」・「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)」・「電気設備工事監理指針」によること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

## II 配線関係

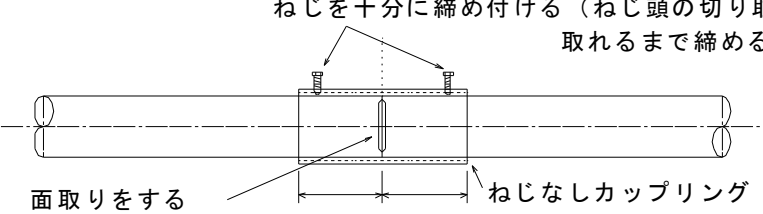
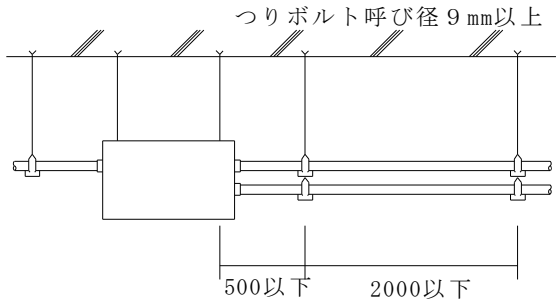
項 目						チェック欄	
						施工前	完工時
1 電線色別は下表による。						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
電圧種別	配線方法	電圧側	接地側	中性相	備 考		
高 圧	3φ3w	赤・白・青					
低 圧	3φ3w	赤・青	白		200V・400V		
	3φ4w	赤・黒・青		白			
	1φ3w	赤・黒		白			
	1φ2w	赤又は黒	白		100V		
	1φ2w	赤・黒			200V		
	3路4路の渡り	青					
直 流		(正) 赤	(負) 青				
接 地 線		緑 ・ 緑/黄 ・ 緑/色帯			ED:緑, ED(ELB)緑/黄		
※ 400Vの回路には、『400V』の表示を行う。							
※ 接地線には、各種別の表示を行うこと。							
2 耐火・耐熱ケーブルのジョイントは、耐火・耐熱処理をする。						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 屋外での電線ジョイントは、自己融着テープにて処理する。						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 入線は、ボックス内の清掃・ブッシング取付け後に行う。						<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### Ⅲ 配管関係（金属管）

項 目	チェック欄	
	施工前	完工時
<p>1 強電配管のボックス周りは渡りアースをとる。</p> 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p>2 配管の支持サドルは両サドルとし特別な場合以外は片サドルを使用しない。</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p>3 はつり貫通後は、完全に埋め戻し復旧補修を行う。</p> 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p>4 配管が5本又は（3 1）のときは、大深ボックス（1 1 9×1 1 9×5 4とする。 ※ 1 1 9は大型 1 0 2は中型 5 4は深型 4 4は浅型</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p>5 仕上げ面のボックスプレート及びビスは化粧型とし、プレートに用途表示をする。 ※ 貼りつけシール（テプラ等による）・・・例えば、「自火報」・「放送」・「電灯」</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p>6 EXP. J 箇所のプリカチューブは弛ませる。</p>  <p>プリカチューブ (P. BOX 取付部下、天井面には、点検口を設ける。)</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p>7 配管ネジ切り部（特に盤内ニップル部）、アングル・レースウェイ等鋼材の切り口、および溶接箇所には錆止め塗装を行う。</p>  <p>配管ネジ切り部分は錆び止めを施す。 建築工事監理指針（金属工事）による</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>



### Ⅲ 配管関係（金属管）

項 目	チェック欄	
	施工前	完工時
8 高さ2.0m以下に設置するハンガーレールの端末及びボルト端末には、保護キャップを取付ける。また、壁面配管で人が容易に触れるおそれのある場所にも同様の措置をとる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 ネジなしカップリングは、下記に注意のこと。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p style="text-align: center;">ねじを十分に締め付ける（ねじ頭の切り取れるものは 取れるまで締める）</p>  <p style="text-align: center;">均等になるように突き合わせる 防水型カップリングはJIS規格品を使用すること。但し、ケーブル保護用として使用する場合は製造者の標準としてもよい。</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 配管の支持は、下記の要領にて行う。 (設備配管とは離隔をとり、特に保温代を見込む。高温配管とは熱絶縁する。)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		
11 天井点検口のところに配管が通らないようにする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 電気用の点検口は事前に打合せをして有効な位置とする。 (EXP-J個所・EPS前・P. BOX箇所等)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 吊り金具のインサートは、電気・建築・機械それぞれ色別する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 EPS、PS以外で、露出配管（屋内外共）及び支持材は、配管敷設前に、下地処理の上、2回塗り塗装を行う。2回目を指定色とし、1回目は他の色で塗る。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 位置ボックスは、壁面ボードとの隙間が5mm程度以下となるよう、継棒等で調整する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16 地中より立ち上げの金属管（PEは除く）は、地中からGL+300mmまで防蝕テープを巻く。（標準図による）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17 屋外の配管支持材は、SUS製とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18 引込盤に接続する防水プリカには、水抜き式カップリングを使用する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19 防水層等に設置する配管支持ブロックは、ゴムシートを敷く。 (※ブロックとゴムシートは接着剤で剥離しないように措置する。)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

IV 配管関係 (PF管)

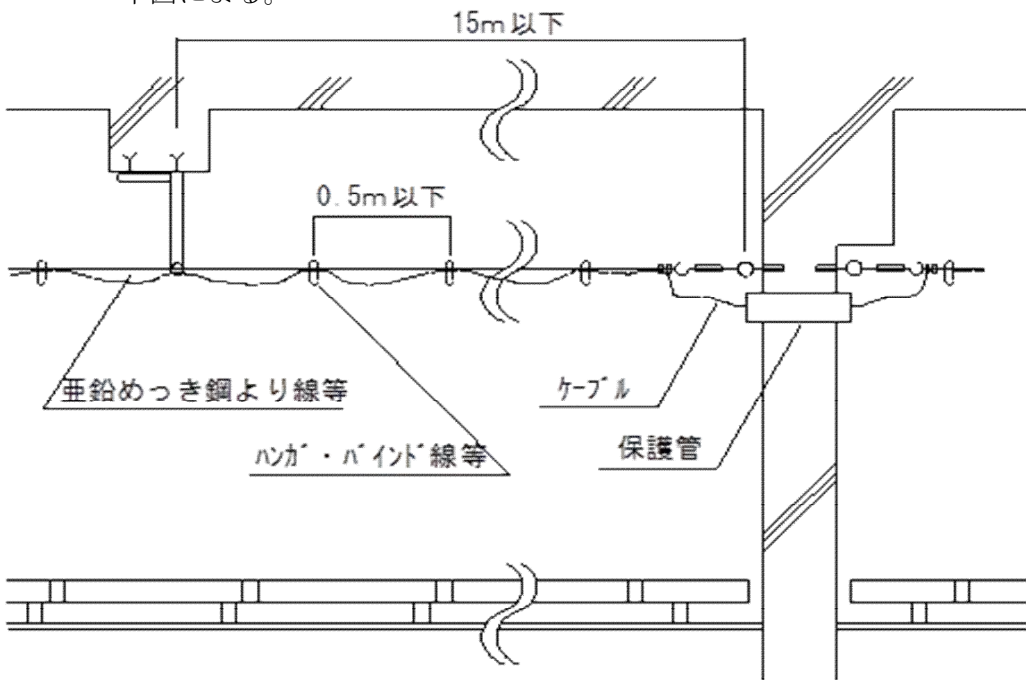
項 目	チェック欄	
	施工前	完工時
1 使用電圧が300V以下で金属製のBOXなどに接続して使用する時は、BOXなどにD種接地工事を施す。但し、標準仕様書に記載してある条件に合致する場合は省略できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 結露するおそれのある外壁に埋め込むボックスは、結露防止措置付(断熱材等)を使用すること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 原則として管の屈曲は、管内径の6倍以上とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 管の支持点間の距離は、インペイ部で1.5m、露出及びコンクリート埋設で1m以下とする。 (支持点は、管端・管とBOXとの接続点、管相互の接続点の30cm以内の場所)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 コンクリート埋設では、鉄筋等により、または曲がり部で押し潰されていないかチェックする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 コネクタ、カップリングなどの付属品の取り付けは完全かチェックする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 結束材は、バインド線又は専用支持材とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 コンクリート埋設時の隔離・交差等について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
① 配管相互の間隔は、30mm以上とする。 (参考)盤の上下部分やEPS等配管が集中する部分において、配管相互間隔(30mm)が不足する場合は別の場所でプルボックス等を使用して配線処理を行い、他の配線方法によって盤及びEPSに配線することを検討する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 交差は少なくする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 梁を横断する場合はまとめて配管しない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 鉄筋に沿わせて配管しない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 梁に平行の配管は、梁面より500mm以上の間隔をあけて敷設する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 壁内の横引き配管は極力避ける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 コンクリートスラブ立ち上がり配管は、支持用鉄筋棒をL字型に曲げ、スラブ筋と結束する。又は、立ち上げスタンド等を使用する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 原則として配管の支持サドルは両サドルとし、特別な場合以外は片サドルを使用しない。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

V 配管関係 (金属線び 1種：メタルモールジング 2種：レースウェイ)

項 目	チェック欄	
	施工前	完工時
1 1種金属線びのベースは、1 m以下の間隔で造営材に取付けること。また線び相互の接続点の両側、線びと付属品の接続点および線び端に近い箇所固定する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 1種金属線びの接続部には、ボンディングを施し、電氣的に接続する。ただし、300 V以下で4 m以下の金属線びの場合は、接地工事を省略できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 2種金属線びの支持間隔は、1.5 m以下とし、つりボルトの呼び径は9 mm以上とする。なお、必要に応じて振止めを施す。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 2種金属線びと金属管、プルボックス、分電盤等との間は、ボンディングを施し、電氣的に接続する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 2種金属線び内では、接続点の点検ができる部分で分岐する場合のみ、電線を接続することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

VI ケーブル工事

項 目	チェック欄	
	施工前	完工時
1 ケーブルラックの水平支持は、鋼製で2 m以下、アルミ製で1.5 m以下、又垂直支持は原則として3 m以下とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 ケーブルラックの吊りボルトは、ラック幅が600 mm以下で呼び径9 mm以上ラック幅が600 mmを越えるもので12 mmとする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 ケーブルラック上の配線でケーブルは、原則として水平部では3 m以下、垂直直部では1.5 m以下の間隔ごとに固定する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 ケーブルをケーブルラックに垂直に布設する場合は、特定の子げたに荷重が集中しないように固定する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 ケーブルラック上の配線には、要所にプラスチック製、ファイバ製などの名札を取り付け、回路の種別、ケーブルサイズ、行先などを表示する。 (VII-9 参照)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 ケーブルを造営材に取り付ける場合、その支持点間の距離は2 m以下とする。但し人が触れるおそれのある場所または造営材の側面もしくは下面に施設する場合は1 m以下とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 二重天井内配線については、次の配線方法による。		
① ケーブルラック配線 (VI-3 参照)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 保護管配線 (標準仕様書参照)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ ちょう架配線 下図による。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>



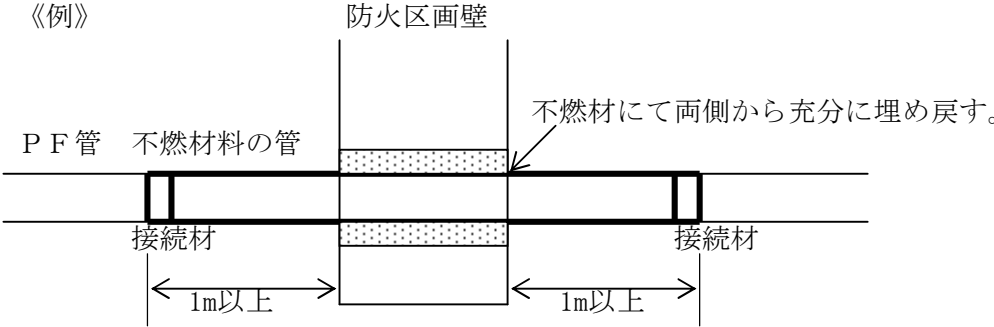
VI ケーブル工事

項 目	チェック欄	
	施工前	完工時
<p>④ ケーブル支持配線 つりボルトに支持する場合は、ケーブル被覆を破損しないような絶縁物を介して支持する。</p>	□	□
<p>⑤ ころがし配線 ケーブルは、天井下地材や天井材等で損傷ないように布設し、弱電流電線と接触しないように注意する</p>	□	□

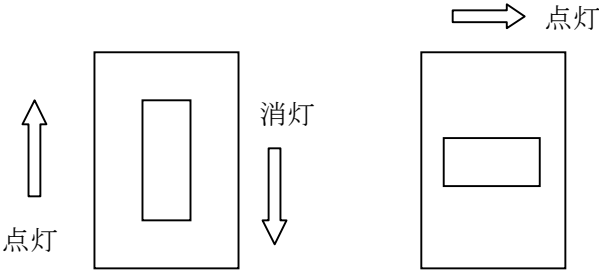
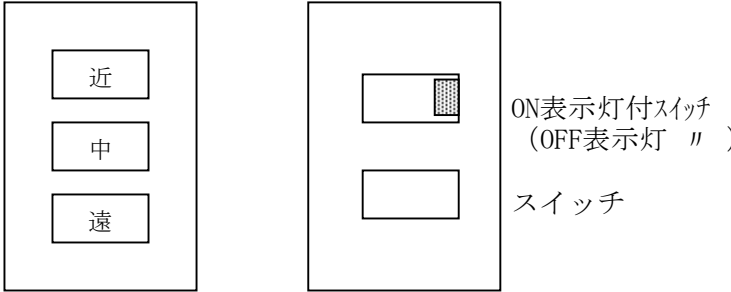
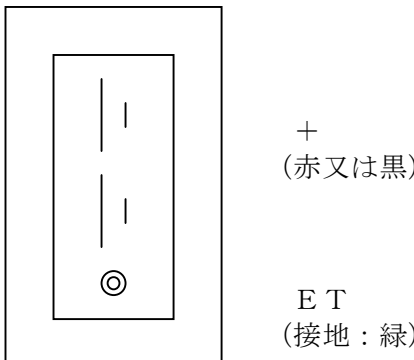
Ⅶ プルボックス関係

項 目	チェック欄	
	施工前	完工時
1 プルボックスは国土交通省仕様とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 強弱電共用のプルボックスの内部には、堅牢な隔壁を設ける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 蓋の止めネジは間隔を350mm以下とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 長辺が600mmを越えるものには、1組以上の電線支持物の受金物を設ける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 長辺が800mmを越える蓋は、1辺が800mm以下になるよう分割して、蓋を取り付ける。又、開口部は等辺山形鋼などで補強する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 屋外に設けるプルボックスは水抜穴を設け、取付面にコーキングを施す。蓋の止めビスはステンレス製とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 EPS・PS以外で露出配管部分に設置するプルボックスは、指定色塗装（色を変えて2回塗り）を行う。但しSUS製・VE製は不要とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 プルボックスの支持点数は、4箇所以上とする。ただし、長辺の長さ300mm以下のものは2箇所、200mm以下のものは1箇所としてもよい。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 プルボックス内の電線・ケーブル・接地母線には名札を取り付ける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>○</p> <p>電 灯</p> <p>QB</p> <p>~</p> <p>L-1</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>○</p> <p>I E</p> <p>38□</p> </div> </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <span>表</span> <span>裏</span> </p>		
10 プルボックスの蓋には用途表示をする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

VIII 防火区画等の貫通

項	目	チェック欄	
		施工前	完工時
1	<p>金属管が防火区画等を貫通する場合</p> <p>金属管と壁等の隙間に、モルタル・耐熱シール材等の不燃材料を充填する。</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	<p>国土交通大臣認定を受けた工法で施工する場合</p> <p>① 認定書の写し、施工方法が分かる資料を提出し、監督職員の承諾を得る。</p> <p>② 施工完了後に防火措置工法の完了標識を貫通場所のわかる位置に貼る。</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	<p>P F 管が防火区画等を貫通する場合</p> <p>下記に施工例を示す。</p> <p>《例》</p>  <p>不燃材料の端口は、耐熱シール材等で密閉する。</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

## IX 配線器具関係

項	目	チェック欄	
		施工前	完工時
1	スイッチの取り付けは下図の要領による。 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	同じパターンのスイッチの場合は順序を揃える。又、防水型を除き、 全て『ネーム入りスイッチ』とする。 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	スイッチ、コンセントの位置は、壁仕上げの分かれ、目地に注意して 施工する（寸法は、原則として下記による）。 ※ スイッチ・・・高さ 1300mm（特殊な場合は図面に明示） ※ 屋内コンセント・・・高さ 300mm（特殊な場合は図面に明示） ※ 和室コンセント・・・高さ 150mm（特殊な場合は図面に明示） ※ 屋外コンセント・・・高さ 500mm（特殊な場合は図面に明示）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	コンセントの位置、高さをチェックする。（棚、備品の有無）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	コンセントの取り付け及び配線の色別は下図要領による。 	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	コンセント、スイッチ、ボックス類は十分に養生する。 （特に、左官・塗装工事）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	コンセントのプレートには、回路番号を表示する。（動力回路含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	パイロットスイッチは、負荷容量に適合したスイッチを使用する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	G回路送りのコンセントには、赤丸シールを貼り識別可能とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>



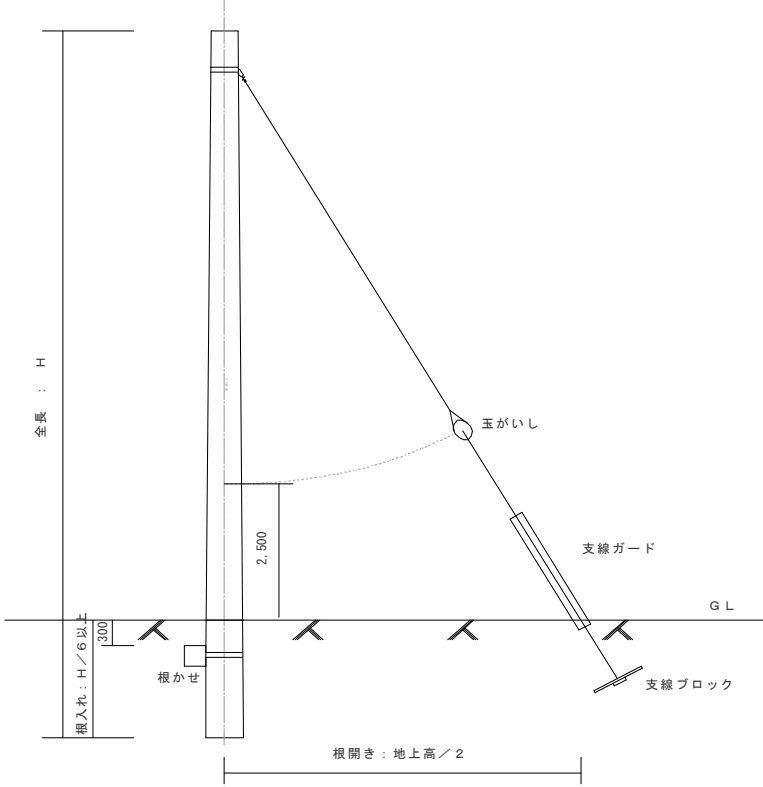
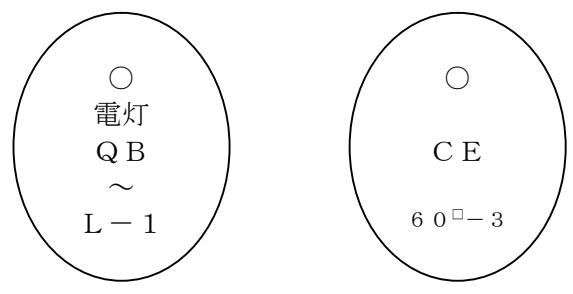
X 照明器具関係

項 目	チェック欄	
	施工前	完工時
1 照明器具の配置は、天井伏、備品家具配置、利用形態等を考慮して決定する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 機械室や厨房の照明器具配置は、機械施工図（ダクト、機械配置等）と照合し有効な位置とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 標準仕様書の範囲で全ての器具は、アースを取る。  ※ 金属管の場合は、明記なきときはパイプアースより取ってもよい。 ※ P F 管の場合は、分電盤よりアース線を入線のうえとる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 機器は、スラブその他構造体に、呼び径 9 mm以上の吊りボルト・ボルト等で取付ける。但し 3 kg以下のダウンライトを除く。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 器具質量が 1.5 kgを超え 3 kg以下の場合は脱落防止処置を行う。 (工事標準図 電力 2 2 参照)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 G回路送りの照明器具には、赤丸シールを貼り識別可能とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

X I 盤 関 係

項 目	チェック欄					
	施工前	完工時				
1 盤内の配線は電線の曲がりを取り、美しく結束する。又、端子の噛ましは充分にして緩みのないようにする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
2 結線後はビス・ナットの増し締めを行い、ビス・ナットにチェックを入れること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
3 強電盤は、配管のボンド線アースと共に接地工事をする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
4 接地線を接続するねじは、十字穴付または溝付六角頭とし、その頭部に緑色の着色を施すか、ねじの近傍にアースマークを貼る。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
5 盤・機器類は現場搬入以降、保管中や取り付け後の養生を充分に行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
6 電灯盤及び動力操作盤、警報盤等は必ず回路チェック及び動作確認をする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
7 外壁取付けの盤、ボックス等は、上方、側方の3面をコーキングし、水抜き穴を設ける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
8 盤内電線・ケーブル・接地母線には名札を取り付ける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
<table border="0" style="margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>○</p> <p>電 灯</p> <p>L-1</p> <p>送り</p> </td> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>○</p> <p>I E</p> <p>38□</p> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">表</td> <td style="text-align: center;">裏</td> </tr> </table>	<p>○</p> <p>電 灯</p> <p>L-1</p> <p>送り</p>	<p>○</p> <p>I E</p> <p>38□</p>	表	裏		
<p>○</p> <p>電 灯</p> <p>L-1</p> <p>送り</p>	<p>○</p> <p>I E</p> <p>38□</p>					
表	裏					
※ 製作に係る仕様は「盤類製作基準」による。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

XII 屋外関係

項 目	チェック欄	
	施工前	完工時
<p>1 構内柱の建柱位置は、建築課・施設管理者立会の上決定する。</p> <p>2 地盤軟弱の場合は根かせを増やす。又、根かせは径13mm以上の溶融亜鉛めっきUボルトを用い、Wナットで固定する。</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p>3 ハンドホール内ケーブルには用途・行先・ケーブルサイズを表示した名札を取り付ける。又、ケーブルは弛みをもたせ、架台にのせるか、フックボルトに結束支持する。(乳白色アクリル板へのエッチング又は、パウチによる。)</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p>4 ハンドホールの蓋は4点ボルト止め、『電気』の文字入りとし、塗装を2回塗りとする。また蓋受け枠とSUS製のチェーンで繋ぐこと。</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p>5 ハンドホール・基礎等の施工については、『工事写真撮影のB-1、2』を参照のこと。</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p>6 地中埋設配管の施工については、『工事写真撮影のA-1、2』を参照のこと。</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<p>7 装柱金物(自在バンド等を含む)については、SUS又は溶融亜鉛めっき鋼製とする。</p>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

XII 屋外関係

項 目	チェック欄	
	施工前	完工時
8 転圧にはタンピングランマー、タコ等の転圧力の強いものを使用すること。 (プレートランマーは転圧力が弱いため、使用しないこと。)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 地中埋設配管の経路上必要な箇所には、埋設標示コンクリート杭或いは標示ピンを設ける。また経路に沿って、2倍長重ね合わせの埋設標示テープを管頂と地表面のほぼ中間に敷設する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 波付硬質合成樹脂管(FEP)を用いる場合で通線を行わない管路には管端口に防水栓等を設ける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 ハンドホール外部の配管貫通部のモルタル補修は型枠を使用する。なお、配管下部にもモルタルを充分詰めること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 ハンドホール及びハンドホールより分電盤の配管の末端は、シールをして防臭防湿を行う。(すべての管端を対象とする。)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 基礎等のクラッシャーランの厚み測定は、転圧後に行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 接地極は、上端をGL-750以上の深さに埋設する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 接地極埋設標は、接地極の埋設位置の近くの適切な箇所に設ける。 ただし、屋外灯の接地極埋設標は、省略することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

XII 屋外関係

項 目	チェック欄	
	施工前	完工時
<p>1.6 アスファルト舗装復旧は下図による。(必ずカッターで切断すること)</p>	□	□
<p>1.6 コンクリート舗装復旧は下図による。(必ずカッターで切断すること)</p>	□	□

XIII 受変電関係

項	目	チェック欄	
		施工前	完工時
1	引込柱の装柱は、下記を標準とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	電気室、キュービクルには、『高圧危険』『変電設備』の表示を行う。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	電線・ケーブルの機器への接続は、地震などの振動を防止するため弛みをもたせる。又、変圧器の二次側が銅帯の場合は、編組銅帯により接続する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	根かせは径13mm以上の溶融亜鉛めっきUボルトを用いて、Wナットにて固定する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

XIV 弱電関係

項 目	チェック欄	
	施工前	完工時
1 TVアンテナの位置は、事前に現地で電界強度測定を行い測定データにより最良の場所とする。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 TV共同受信設備の機器は、標準図による。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 火災受信機の警戒区域図は、受信機に対面して見た方向に建物配置を描く。又、間仕切り、発信機位置も記入する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 防火戸連動制御盤も建物平面図を作成し、その区域（階段位置）図を掲示する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 弱電機器のアースは、必要に応じて単独で設ける。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 電線色別は、標準仕様書による。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

XV その他

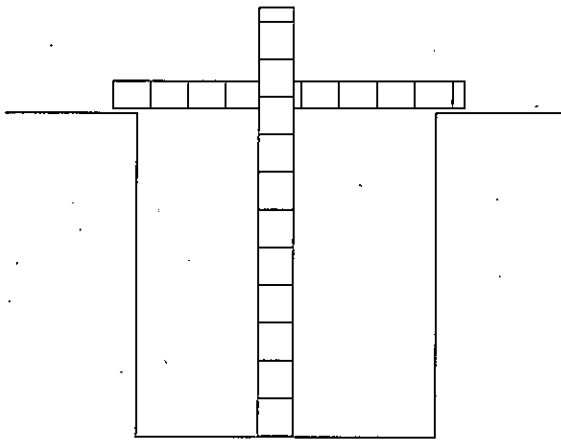
項 目	チェック欄	
	施工前	完工時
1 機器や盤の固定に際しては、耐震強度計算書により行ってアンカーボルトを選定する。また、その施工写真を撮ること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 受水槽、高架水槽の電極長さは、機械設備工事と協議の上、決定する。 (電極が長い場合は、スペーサーを取付け、防波管に収め誤動作を防ぐ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 水密を要する箇所のスリーブは、標準図 電力74による。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 スリーブ工事において、紙チューブは外径200mm以下のものとし、柱・梁部分には使用しない。また、使用した紙チューブは、型枠取外し後に取り除くこと。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 試験・測定中の写真には、その時点でのデータを付記すること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>



XVI 工事写真撮影チェックポイント表

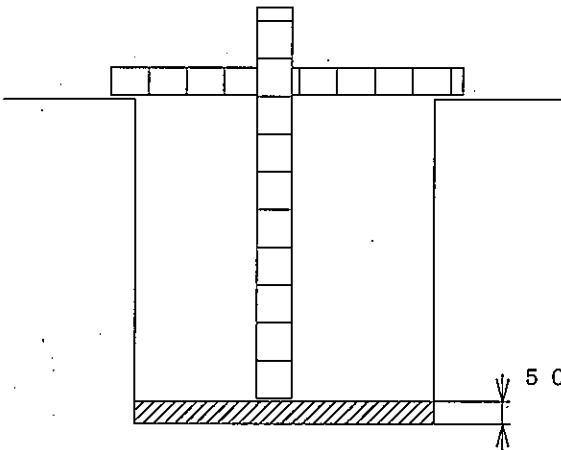
				チェック欄	
工事種目	撮影対象	撮影内容	撮影時期	施工前	完工時
	着工前の状況 (増設・改造等の場合)	電気室・機械室等 施工関連箇所	着工前	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	工事仮設物等 (看板・現場事務所 仮囲い・バリケード 法に基づく表示物等)	設置状況 看板(建設業許可票、労災保険関係成立票 建退共加入ステッカー等)の掲示状況 安全対策(足場手摺、誘導員、KY活動等) 重機(クレーン・バックホウ等)の低騒音型ラベル	適時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	機材	主要機材の表示・寸法・数量 マーク(メーカー等)・立会人	機材 搬入時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	発生材	整理・集積状況、車積載、処分場	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	障害物	形状・寸法等	発生時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		処理状況	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	各種試験・測定・検査	状況・測定値・立会人 TV画像(最低レベルのテレビ受口)	適時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	塗装	施工状況(下地処理・下塗り・上塗り)		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		さび止めペイントの缶 (JPMS28又はJASS18M-109が分かるように) 塗料の缶(F☆☆☆☆、JIS規格が分かるように) * JIS K 5516「合成樹脂調合ペイント」1種	施工 工程毎	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	スリーブ・インサート	材質・寸法・形状・取り付け状況 開口部の補強状況(補強鉄筋の状況)	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	監督職員の特に指示する箇所	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
盤類	キュービクル・分電盤	工場製作工程(製缶・塗装工程)・工場検査状況	製作時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	制御盤・端子盤	※ [盤類製作基準] を参照のこと	検査時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
配管工事	梁・壁等貫通箇所	鉄筋探査状況、鉄筋位置、貫通コア モルタル等による補修状況	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	防火区画貫通箇所	貫通処理材料(国土交通大臣認定品)、施工状況	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	隠蔽配管・位置ボックス プルボックス・打込配管	配管の状況・支持及びボンディングの状況 支持間隔の寸法 スイッチ、コンセント等のボックスの位置(寸法)	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
配線工事	電線の入線・接続	電線の入線・接続状況、端末処理状況 行先表示取付状況	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
機器取り 付け	分電盤・照明器具 弱電機器等	吊ボルトの支持方法、間隔等、あと施工アンカー及び アンカーボルトの施工状況、機器取付け状況	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

				チェック欄	
工事種目	撮影対象	撮影内容	撮影時期	施工前	完工時
接地工事	A・B・D種	接地極の種類、寸法	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	C種	接地極と導線の接続及び埋設状況		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
接地工事	弱電用（D種）	接地極の埋設深さ	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		接地抵抗測定状況（測定値記入）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	離隔等	各接地極が隣接する場合の離隔状況	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
架空配線 工事	電柱・支柱・支線の根入れ、根かせの取付け	根入れ深さ・建柱状況	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		根かせの深さ・取付方向		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
地中配線 工事	地中埋設管路	管路の掘削状況	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		埋戻状況（30cm毎の転圧状況ーランマ等による。 ただし、プレートランマは不可とする。）		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		埋設表示テープの施工状況		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		埋設表示杭、ピンの施工状況		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	ブロックハンドホール	クラッシュラン（厚み・大きさ）	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		組立状況・防水対策		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		管口の処理状況		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
避雷設備	受雷部等	取り付け・支持の状況	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	避雷導線	配線、鉄骨・鉄筋と導線接続金物等との接続状況	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
受変電、 自家発電	基礎	クラッシュラン・捨てコンクリート (必要に応じて) 型枠・配筋寸法・出来形寸法	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	搬入・機器据付け	搬入状況（安全対策・重機配置等） 機器据付アンカー及びアンカーボルト(長さ・径)の 施工状況、取付金物等の取付状況 据付状況	施工中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	各種試験	耐電圧試験・絶縁抵抗試験等の状況	試験時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
検査	諸官庁検査状況	中部近畿産業保安監督部・消防署・建築指導課・ 建築課 契約検査課等の検査状況	検査 受検時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
竣工	各室照明器具	点灯状況	点灯 試験時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	グラウンド照明器具				
	各機器 (強電・弱電機器)	取付・据付状況	完成時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	その他機器等	取付・据付状況	完成時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>



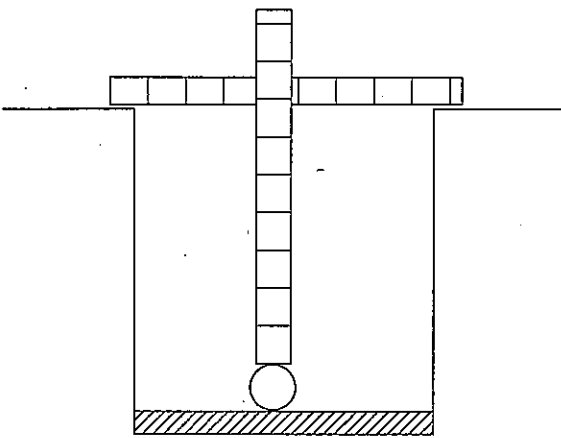
### 1. 床掘り

- i) 掘削深さ、掘削幅が確認できる様、撮影する。
- ii) 黒板に実測値等を記入した略図を入れる。



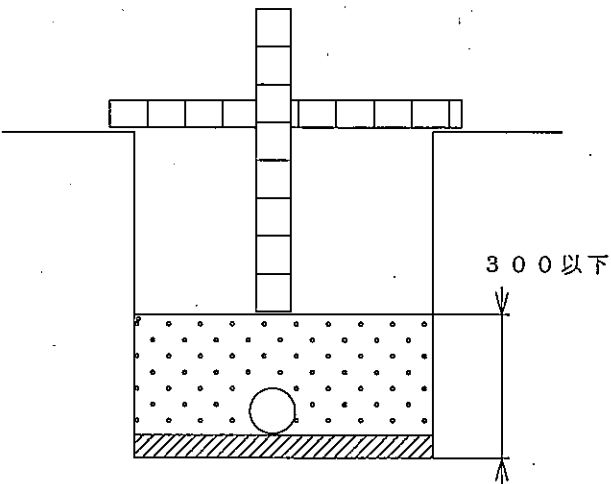
### 2. 良質土敷きならし

- i) 掘削の底部は管に障害を与えないよう石、がれき等を除き、良質土を均一に50mm敷きならす。
- ii) 掘削深さ、掘削幅が確認できる様、撮影する。
- iii) 黒板に実測値等を記入した略図を入れる。



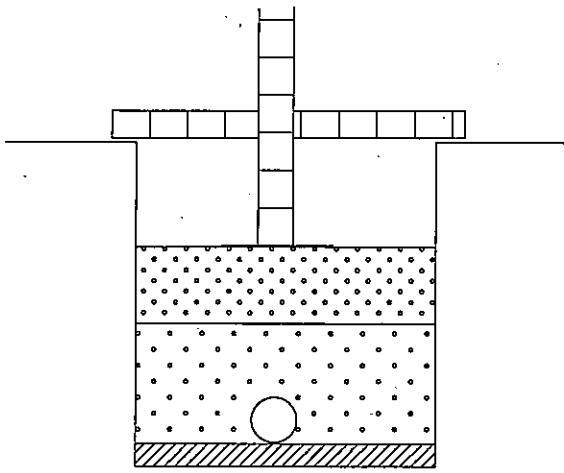
### 3. 配管布設

- i) 管は不要な曲げ、蛇行等がないよう布設する。
- ii) 多条布設する場合は、管相互に呼び径50以下は50mm、50超過～150以下は70mm、それ以上は100mm程度の間隔をとる。  
なお、固定又は隔離のための枕は使用しない。
- iii) 黒板に実測値、配管サイズ等を記入した略図を入れる。



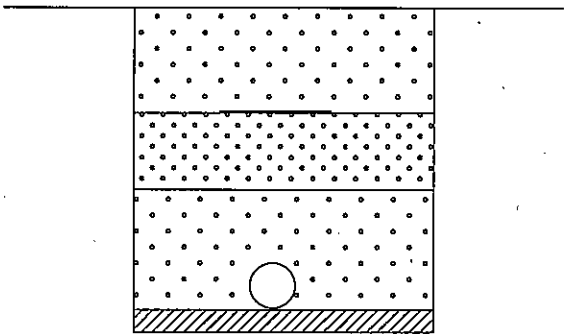
### 4. 埋め戻し（1層目）

- i) 埋戻しは、根切り土の良質土により1層の仕上り厚さが0.3m以下となるよう均一に締固める。また埋戻しに際して地中埋設物に損傷を与えないよう注意する。
- ii) ランマー等により締固め中の写真も撮影する。
- iii) 黒板に実測値等を記入した略図を入れる。尚、寸法については締固め後の寸法を測定し、記入する。



5. 埋戻し（2層目）、標識シート

- i) 3. i)、ii)、iii)と同様
- ii) 標識シートは2倍長以上重ね合わせのものを使用し  
設置深さは、管頂と地表面（舗装のある場合は、舗装下面）のほぼ中間に設け、概ね2mの間隔で用途  
または電圧種別等を表示する。



6. 埋戻し（最終）

- i) 3. i)、ii)、iii)同様

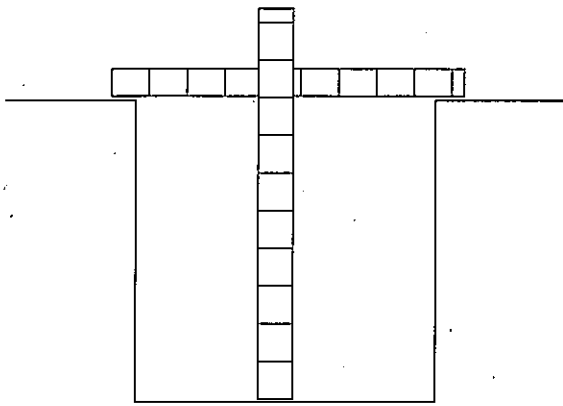
写真撮影ポイント等について

- 1) 写真撮影ポイントは、ハンドホール・灯具基礎間（30 m程度）で概ね1箇所とする。  
また、極力、同一箇所・同一方向から撮影し、施工状況が確認できるように整理する。
- 2) 黒板の記入もれ、数値等の誤記入等は工事写真の余白欄で略図等を用い補足説明を行う。

黒板記入例

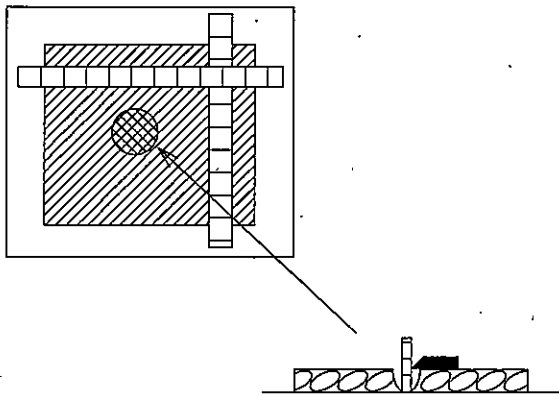
工事名称	○○○○○○○○○○電気設備工事
工事内容	HH1～HH2間
埋設配管 FEP30×2本、FEP40×1本	
<p style="text-align: center;">1層目転圧</p> <p style="text-align: center;">実測値 GL-650</p> <p style="text-align: center;">GL</p> <p style="text-align: center;">450</p> <p style="text-align: center;">250</p> <p style="text-align: center;">50</p>	
施工業者	○○○○○電気株式会社

黒板に記入もれ等の場合、工事写真の余白で補足説明を行うこと。



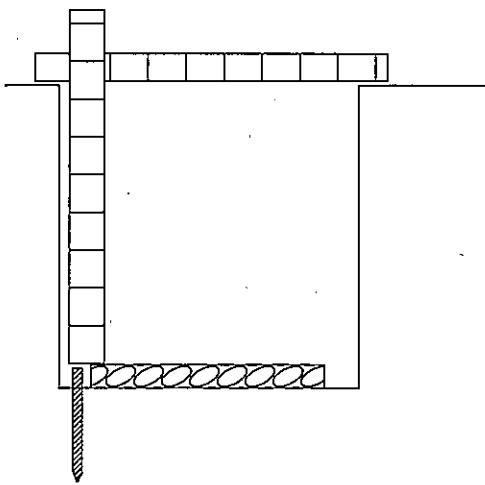
### 1. 床掘り

- i) 掘削の底部は石、がれき等を除き、良質土を均一に敷きならす。
  - ii) 掘削深さ、掘削幅が確認できる様、撮影する。
  - iii) 黒板に実測値等を記入した略図を入れる。
  - iv) 掘削深さが1.5mを超える場合で、必要ならば建築基準法施行令の規定による山止めを設けること。
- (※1)



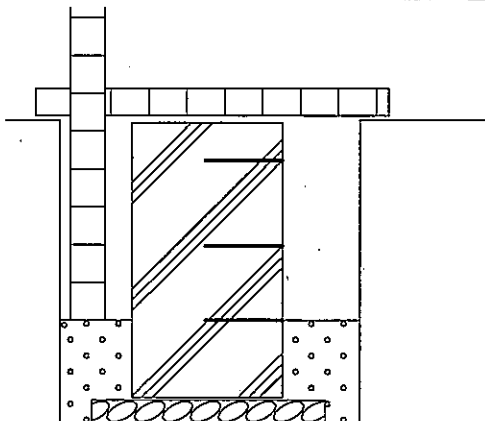
### 2. 地業（砂利）

- i) 根切り底に砂利を所要の厚さに敷き均し、振動コンパクター等により十分に締固める。転圧後100mmとする。なお、外灯基礎等の場合の締固めは手だこ（25kg程度）による締固めとしてもよい。
- ii) 黒板に実測値、寸法等を記入した略図を入れる。



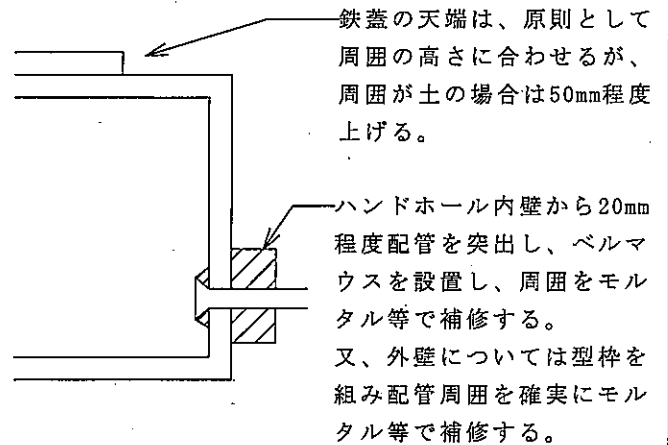
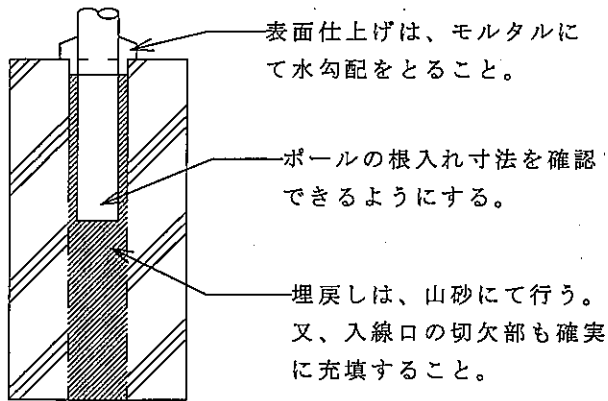
### 3. 接地極の埋設

- i) 接地極の埋設場所は、土質が均一で、他の金属埋設物がない場所とし、上端を地下0.75m以上の深さに埋設する。
- ii) 接地の種類、埋設深さ等を記入した略図を入れる。
- iii) 接地抵抗測定中（測定値・法定値を黒板に記入）、接地線の接続状況等の写真も撮影する。



### 4. 埋戻し

- i) 埋戻しは、各層の転圧後の仕上り厚さが0.3m以下となるよう均一に締固める
- ii) 原則として締固めは、機器（ランマ等）を用いて、締固めながら埋め戻す。又、土質による沈みしろを見込んで余盛りを行う。
- iii) 掘削深さ、埋戻し寸法等を記入した略図を入れる。転圧仕上り線等により確認できるのも効果的である。



ブロックハンドホールの組立てについては接着状況（材料、接着材塗布等）が確認できるように撮影すること。

写真撮影ポイント等について

- 1) ハンドホール・灯具基礎毎に撮影する。 また、極力、同一箇所・同一方向から撮影し、施工状況が確認できるように整理する。
- 2) 黒板の記入もれ、数値等の誤記入等は工事写真の余白欄で略図等を用い補足説明を行う。

黒板記入例

工事名称	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇電気設備工事
工事内容	HH 1
<p>基礎設置 1層目転圧</p>	
施工業者	〇〇〇〇〇電気株式会社

黒板に記入もれ等の場合、工事写真の余白で補足説明を行うこと。

### 1) 材料検収

- ・ハンドホール、蓋、基礎、ポール、接地極等は、納入時に検尺し、写真を撮影する。
- ・付属品（ベルマウス、エポキシ接着剤等）、埋設表示品（杭、テープ等）は、メーカー・品番・数量等を記入し撮影する。
- ・必要に応じ、監督職員の立会を要請し、品質管理に努めること。

### 2) 施工中

- ・施工状況が明確となるよう撮影する。
- ・必要に応じ、監督職員の立会を要請し、品質管理に努めること。

### 3) 完成（竣工）写真

下記の内容が確認できるよう撮影する。

- ・ハンドホール・・・（内部）止水状況、行先表示札、タラップ、ケーブル支持等  
（外部）モルタル状況、蓋仕上状況等
- ・基礎・・・・・・（外部）仕上（モルタル・高さ等）状況等
- ・ポール・・・・・・（内部）結線状況（防水ジョイントボックス・安定器等）、行先表示札等  
（外部）点灯状況、塗装仕上状況等
- ・各種試験・・・・測定中（照度・接地抵抗・絶縁抵抗）

撮影ポイントは、原則として全数とする。

#### ※1（建築基準法施行令 第三百三十六条の三）

根切り工事、山留め工事等を行う場合の危害の防止

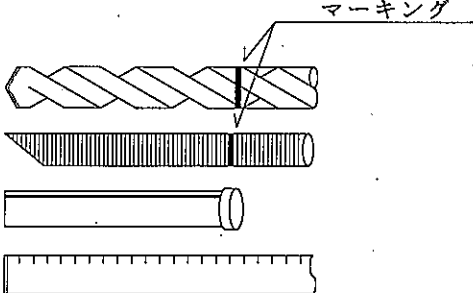
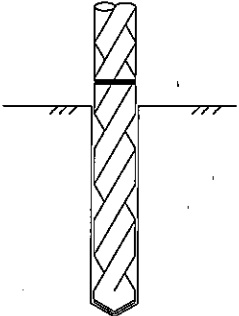
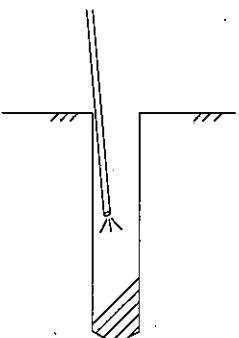
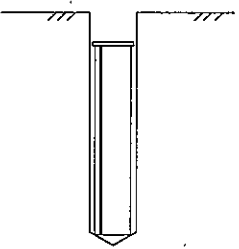
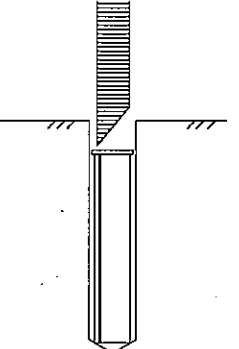
一般例を以下に記載する。

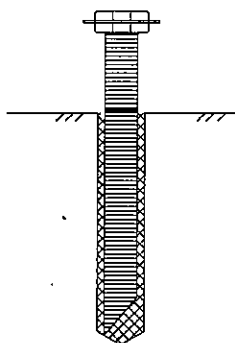
法幅の土質と根切り深さに応ずる係数 $\alpha$ は、普通土の場合、

- ①根切り深さが1.5m未満の場合は、法を設けない。
- ②根切り深さが1.5m以上5.0m未満は0.3を標準とする。
- ③5.0m以上は0.6を標準とする。

$$\text{法幅} = (\text{根切り深さ}) \times \alpha$$



	<p>1. 寸法測定</p> <p>i) ドリル・ボルト・ケミカルアンカー(カプセル)を並べ各寸法を測定する。</p> <p>ii) ドリル・ボルトには、マーキングを入れて撮影をする。</p> <p>iii) 黒板にボルトの長さ・径・種類等を記入する。</p>
	<p>2. 穿孔</p> <p>i) 墨出し終了後、ケミカルアンカーに合わせてマーキングをしたドリルで、穿孔を行う。</p>
	<p>3. 清掃</p> <p>i) 吸引やブラシにより、穴の中のゴミを取り除く。</p>
	<p>4. カプセル挿入</p>
	<p>5. 攪拌・固着</p> <p>i) ボルトを回転・打撃をし、マーキングの位置までしっかりと打ち込む。</p>



## 6. 硬化養生

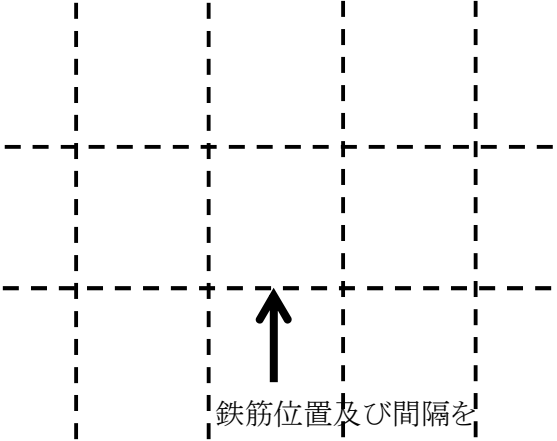
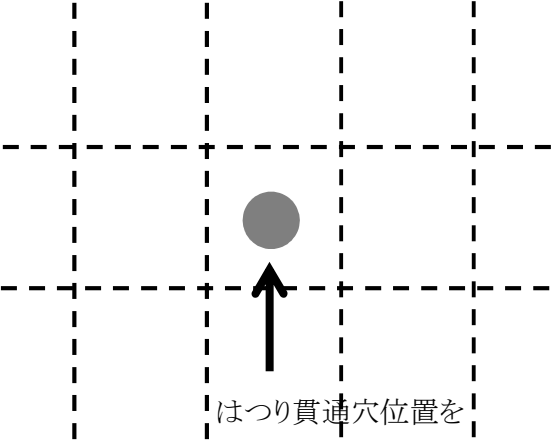
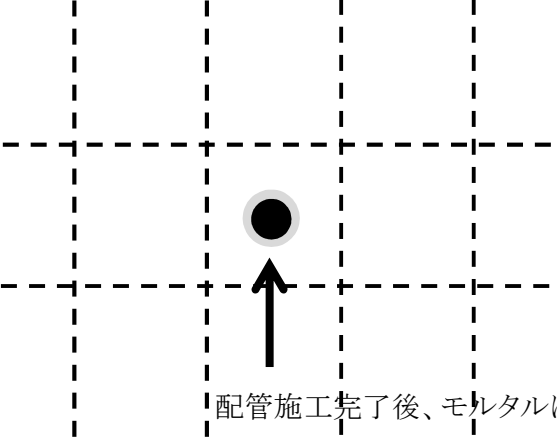
i) 硬化するまで、しっかりと時間をかけて養生する。

### 写真撮影ポイント等について

1) 写真撮影ポイントは、床・壁等の各面で1～2箇所とする。

また、極力、同一箇所・同一方向から撮影し、施工状況が確認できるように整理する。

2) 黒板の記入もれ、数値等の誤記入等は工事写真の余白欄で略図等を用い補足説明を行う。

 <p>鉄筋位置及び間隔を マーキングする</p>	<p>1. 鉄筋探査状況 はつり貫通箇所は、鉄筋探査を行う。</p> <p>2. 鉄筋位置 鉄筋探査により、鉄筋状況を確認する。 鉄筋位置及び鉄筋間隔をマーキングする。</p>
 <p>はつり貫通穴位置を マーキングする</p>	<p>3. 貫通コア はつり貫通穴位置をマーキングし、鉄筋を切断 及び損傷しないことを確認し、貫通作業を行う。 原則として、ダイヤモンドカッターによる。 ※ノロ、ガラ等の処理及び養生を確実にを行う。</p>
 <p>配管施工完了後、モルタルにて 補修する。</p>	<p>4. モルタル補修 配管施工完了後、モルタルを充てんし、補修する。</p>

## 写真撮影ポイント等について

- 1) 貫通該当部の既存コンクリート壁などの鉄筋探査状況を撮影する。
- 2) 貫通該当部への壁などに、鉄筋位置及び間隔をマーキングして撮影する。
- 3) 貫通該当部への壁などに、はつり貫通穴の位置をマーキングし、鉄筋位置及び間隔のマーキングと干渉していないか確認し、撮影する。
- 4) はつり貫通穴マーキングを貫通している作業を撮影する。
- 5) 貫通コアを撮影する。
- 6) 配管施工完了後、モルタルを充てんし、補修後を撮影する。